

# 学生図書委員だより

No.9

発行 二〇〇九年一〇月  
編集 学生図書委員



the  
harvest  
season

今月の一首

カステラを切り分けてゆくひだまりのよ  
うな人にはなれそうもない

中込 有美

『ぐりとぐら』に出てくるかすてらば、陽だま  
りの中で見るおいしい夢。大人になっても、覚め  
ないところがいいのです。

実なスープ。ああ、今すぐにも

食べたい。

さて、最後は、もはや「名作」

の地位を獲得しつつある『センセ

イの靴』（川上弘美）で締めましょ

う。高校の恩師と、偶然再会した

ツキコさんは、彼と一緒に肴をつ

つき、酒をたしなみ、二人一緒の

ときを過ごします。小さな居酒屋

の隅で、ちびちび飲むお酒がたま

らなくいいのです。

料理には随筆もいい本がいつぱ

い。ちよつと時代が前でもいいな

ら、石井好子や吉田健一、壇一雄

なんかが有名どころですかね。食

いしん坊は、食べるのも飲むのも

（笑）、そして書くのも達者です。

秋はご飯が本当においしい。で

も、誰かと食べるともつとおいし

い。秋っていいなあ。

家賃激安のアパートはもちろん訳  
あり。主人公の常識を吹き飛ばす、  
このアパートの正体とは？ 話の  
本筋には関係ないのですが、とに  
かくこのアパートの賄いがおいし  
そうなのです。

（秋だから）

おいしい本を

ご紹介します。

しかし不思議と、作中に料理シ  
ーン、飲食シーンを書く作家は決  
まっているんですね。書く人は  
書くし、書かない人は全く書かな  
い。料理と言って思いつく作家は、  
瀬尾まいこ、北森鴻、最近是小川  
糸なんかも・・・でも一番有名な  
のは、やっぱりよしもとばなな？  
それとも渋くいつて池波正太郎か  
な（笑）？

閑話休題。さてさて、今回は秋  
も深まる十月ということ、読む  
だけでおながが減ってくる本をご  
紹介。まずは『妖怪アパートの幽  
雅な日常』シリーズ（香月火輪）。

お次は吉田篤弘の『それから』  
スープのことばかり考えて暮らし

た。小さなロマンスとゆつたりと

した時間が流れる本書を読むと、

じっくり時間をかけて料理を作り

たくなること請け合いです。おい

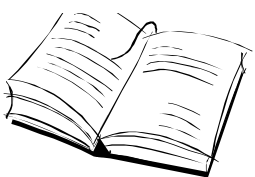
しいサンドイッチと、レシピに忠

大塚かみ出版社マップ

文藝春秋

文藝春秋には、エンターテイメ  
ントでも純文学でもない、「大衆文  
学」の名残が残っているような気  
がします。どこことなくゴシップ的  
な要素が目立つのと、歴史・時代  
小説の有名シリーズが多いせいか

な？ いい意味でも悪い意味でも、  
昭和の香りがするのかも・・・。そ  
して文藝春秋といえば、なんと言っ  
ても芥川賞&直木賞。こうやって見  
ると、やっぱり菊池寛って凄かった  
んだな、と思いますよ。



学生図書委員だよりにつ  
いて感想などありましたら、  
chiisana\_hikidashi@yahoo.  
co.jp まで連絡ください。